

禅林寺

ぜんりんじ



住 海南市幡川424
☎ 073-482-1894

禅林寺は、「幡川のお薬師さん」として親しまれてきました。
開創は天平時代で、唐僧・為光上人が聖武天皇の勅願を得てこの地に建立しました。
中世の頃には「幡川寺」とも呼ばれ七堂伽藍を始め、僧坊十二院・御社三方所・承仕坊三院が建ち並ぶ、当地で最大の寺院でした。
天正十三年（一五八五）、豊臣秀吉の紀州攻めによって、建物はことごとく焼失しましたが、後に秀慶法印により再興されました。

御誓願の由来

本堂の東側に、ぼけよけ地蔵が建立されています。
高齢化の進む中で、ぼけて家族に心配をかけるのではないかなどと悩まれる方々に少しでも安心を持っていただけるようにと建てられたお地蔵様です。

歌 うきまよい るりのひかりに
詠 たらされて
御 はれゆくくもの はたがわのてら

蓮花寺

れんげじ



住 海南市大野中407
☎ 073-482-2470

蓮花寺は、鎌倉時代の貞応二年（一二三三）に、明恵上人（有田郡金屋で生まれた高僧）が五十歳の頃、開基した霊場で、実に七八〇有余年に及ぶ古刹であります。
また、このお寺は熊野古道に通じる小栗街道にあり、近くには、「菩提房王子」や「松代王子」があります。
また、南側の山頂には、中世に築城されたとされる大野城址があり、この麓に紀伊の国（和歌山県）の守護所（行政を司る処）があったと伝えられています。

御誓願の由来

ご本尊は「延命地蔵菩薩」様であります。
このお地蔵様に自分の黒髪を切って願をかければあらゆる願いが叶えられ、頭痛解消や仏様の智恵をも授けて下さると伝えられているので、近年は受験をされる学生や頭痛解消祈願の方々も参詣されます。

歌 もうでくる おほくのひとの
詠 まよひをば
御 みちびきたまえ はすのうてなに

醫王寺

いおうじ



住 紀美野町吉野112
☎ 073-489-3159

醫王寺は、高野領の西の端を護る関所「大日堂」として建立されたことが歴史の始まりです。
その後、八代將軍徳川吉宗の時代、享保六年（一七二一）榮鏡和上により本尊薬師如来（伝弘法大師作）が奉安され、寺号を瑠璃光山醫王寺と称するに至りました。
やがて、街道往来の人々が高野山参詣の出发点として道中の無事を祈願されるようになり、以来、難病祈願に靈験あらたかな願掛けの薬師如来として知られるようになりました。
また、近年は医・薬・看護系の大学受験祈願の若者も多く見受けられます。

御誓願の由来

薬師如来は、左手に薬壺（薬のつぼ）を持しておられます。
當山では古来、本尊さまご宝前に「カヤの実」（形が薬壺に似ている）を加持し、身に付けると心身の難病にご利益があると言いつたえられています。

歌 はるばると 醫王薬師に
詠 願かけて
御 せせらぎ谷に心きよむる

大観寺

だいかんじ



※表紙の写真は、この寺の遠景です。

住 紀美野町中田736
☎ 073-489-2013

大観寺は、平安時代後期の頃、高野山寺領の末寺として、寶林山観蔵寺の名で開基されました。
南北朝の頃には人跡未踏の生石の山腹に住の地を求め移住した落武者たちが、帰依しました。
室町時代後期には、浄土宗や浄土真宗の浸透で約一世紀にわたり占領され、その後、桃山時代から高野山領に復しました。
明治三九年、隣地で同宗派の大師寺と合併し、名を大観寺と改めて現在に至っています。

御誓願の由来

本尊の十一面観音は、この世のすべてをお見通しになり、救いを求める声を耳にされればたちまち救いに來られると言われています。
人の世の四苦「生・老・病・死」で、特に病の苦を減す「無病息災」を御誓願とされています。

歌 大乗の 祈る力の大観寺
詠 生石の山里 極楽ぞあり
御